

元亀争乱後の近江

天正元年（一五七三）、浅井氏を小谷城に滅ぼした信長は、浅井氏に呼応して愛知郡の鯉江城いそぎやまに立て籠もっていた六角義治かくしはるを攻めます。『信長公記』には「取詰候処、佐々木右衛門督降参候退散」とあり、また翌天正二年

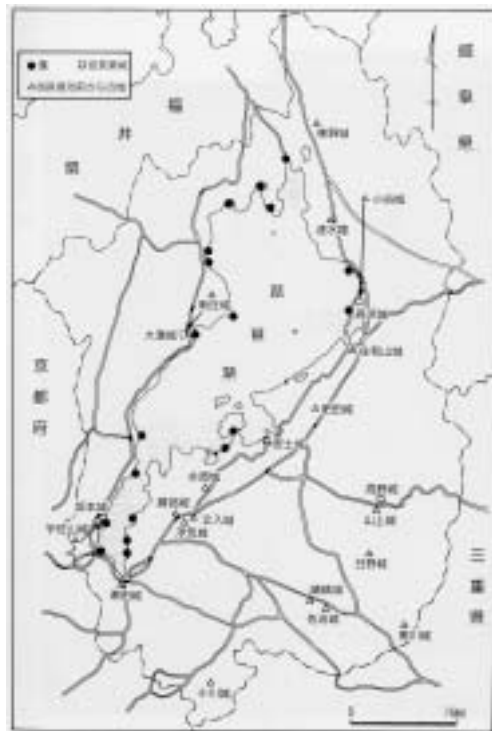


鯉江城跡虎口（愛東町教育委員会提供）

には甲賀に逃れ、浅井氏と結んで湖南でゲリラ的に反信長行動を起こしていた六角承禎いしづかを石部城にて破ります。約四年を費やして、浅井氏・六角氏・高島七頭・延暦寺等の寺社勢力・金森かねもりの一向一揆衆等、近江の諸勢力を平定した信長は、本拠地岐阜と京を結ぶルート一トを完全に掌握し、天下統一への大きな足がかりを得、畿内平定へ本格的に乗り出すのです。

信長は近江国支配のために、佐和山城さわやまに丹羽長秀、

長浜城に羽柴秀吉、坂本城に明智光秀、新庄城に磯野員昌いそのみまさを置き、彼ら家臣に領国の支配を任せます。そして天正四年には岐阜城を長男信忠に譲り、信長自らも近



信長の城郭ネットワーク
（『天下布武へ』安土城考古博物館 より転載）

江国に安土城の築城にかかります。安土城は、これまでの城郭には見られなかった特徴を備えています。これまでの多くの城は土作りの城でしたが、安土城では石垣を大規模に用いた縄張り・瓦葺き建物・礎石建ち建物を採用したのです。実はこれらの技術は、安土城築城以前より寺院などではごく普通に見られるものですが、信長はこれらの技術を総合的に城郭に取り入れたのです。安土城以前の城郭にもこれら

の技術は用いられていますが、三つの特徴を同時に持ち合わせている城郭はありません。これら三つの特徴を備えている城郭は織豊期城郭しよほうきようかくと呼び、彦根城や名古屋城など近世城郭の先駆的な存在とされています。例えば六角氏の本城である観音寺城では、非常に立派な石垣で郭が構築されており、しかも本丸など山上の主要な郭の調査



百濟寺坊跡の石垣（愛東町教育委員会提供）

では、大規模な礎石建ち建物がみつっていますが、瓦は一点も出土していません。また近年では、安土城以前または安土城と同時代の城で、石垣を持つ城が全国各地で見つかっていますが、安土城で高石垣と呼ばれる高さ5mを超えるような石垣はほとんど見られません。

安土城は天正六年に完成し、信長は



観音寺城跡の石垣

ここに居を移し、天下統一を推し進めていきます。そしてそれぞれ水陸の交通の要衝にある、安土城・坂本城・長浜城と新庄城に替わって築城された大溝城の4つの最新式のお城のネットワークで、琵琶湖の水運と陸路を掌握し、近江国の支配を完全なものへとしたのです。



大溝城跡の石垣